

2024年9月8日

「神の御手のもとで」

ペトロの手紙一 5:5-11

早川 真牧師

ここでペトロが教会の年長者、また若い人たちに勧めていることは、皆、謙遜になりなさいということです。神の力強い御手の下で自分を低くするように、そうするならばかの時に高めていただけると言われています。この「かの時」とは、「ふさわしい時」という意味の言葉です。しかし人のふさわしいと思う時ではなく、神のふさわしい時です。神はこの世界の全てを力強い御手をもって治めておられます。その神が最もふさわしいと思う時に低められている人々を高められるのだと言われます。

この地上に生きる限り、悪魔の攻撃は絶えずあります。しかし神御自身が私たちの救いを成し遂げてくださると語られています。私たちは苦しみの中にある時、長いと感じます。いつこの苦しみから抜け出す日が来るのか、抜け出す日など来ないのではないかとさえ思います。しかしどれだけ長く苦しんだように感じられたとしても、それは招かれている永遠の栄光に比べればほんのわずかなものなのだとここで語られています。そして、神は、しばらくの間苦しんだ者を完全なものとし、強め、力づけ、揺らぐことがないようにしてくださると約束してくださっています。

ペトロは高慢であってはならない、むしろへりくだりなさいと今朝の箇所ですべてに書き送っています。それはただ一人力ある神から豊かな恵みを受けるためです。ご自身の約束を必ず実現して下さるこの神の力強い御手のもとで、私たちの生かされているこの短い苦しみの時を、支え合い、励まし合って歩んでまいりたいと思います。